

# mundi

The Magazine of the Japan International Cooperation Agency

# 12

[ムンディ] No. 75  
December 2019

特集

## 西バルカン地域 成長力と 魅力に出会う



December 2019 No. 75

編集・発行：独立行政法人 国際協力機構  
Japan International Cooperation Agency: JICA  
制作協力：株式会社 木楽舎

『mundi』(ムンディ)はラテン語で  
“世界”。本誌は、開発途上国での  
現状や、現場で活躍する人々の  
姿を紹介するJICA広報誌です。

## Contents

- 02 目次  
プロローグ Vol. 14

## 04 特集 西バルカン地域 成長力と魅力に出会う

- 06 メンターの活躍で中小企業を支援 セルビア  
10 生活の基盤を整え国々の発展を コソボ  
14 自然保護と持続可能な利用の両立 アルバニア  
16 適切な森林管理が災害を防ぐ 北マケドニア  
18 公共交通の要となる路線図をつくる ボスニア・ヘルツェゴビナ  
20 “文明の十字路”バルカンを知る  
22 特別レポート  
元サッカー日本代表 宮本恒靖が架けた“希望の橋”

- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 13  
セルビア

- 26 世界につながる教室⑦  
教員研修に生かすJICAの知見  
28 地球ギャラリー Vol. 135 ニカラグア共和国  
写真・文●柴田大輔 フォトジャーナリスト  
湖と生きる人々

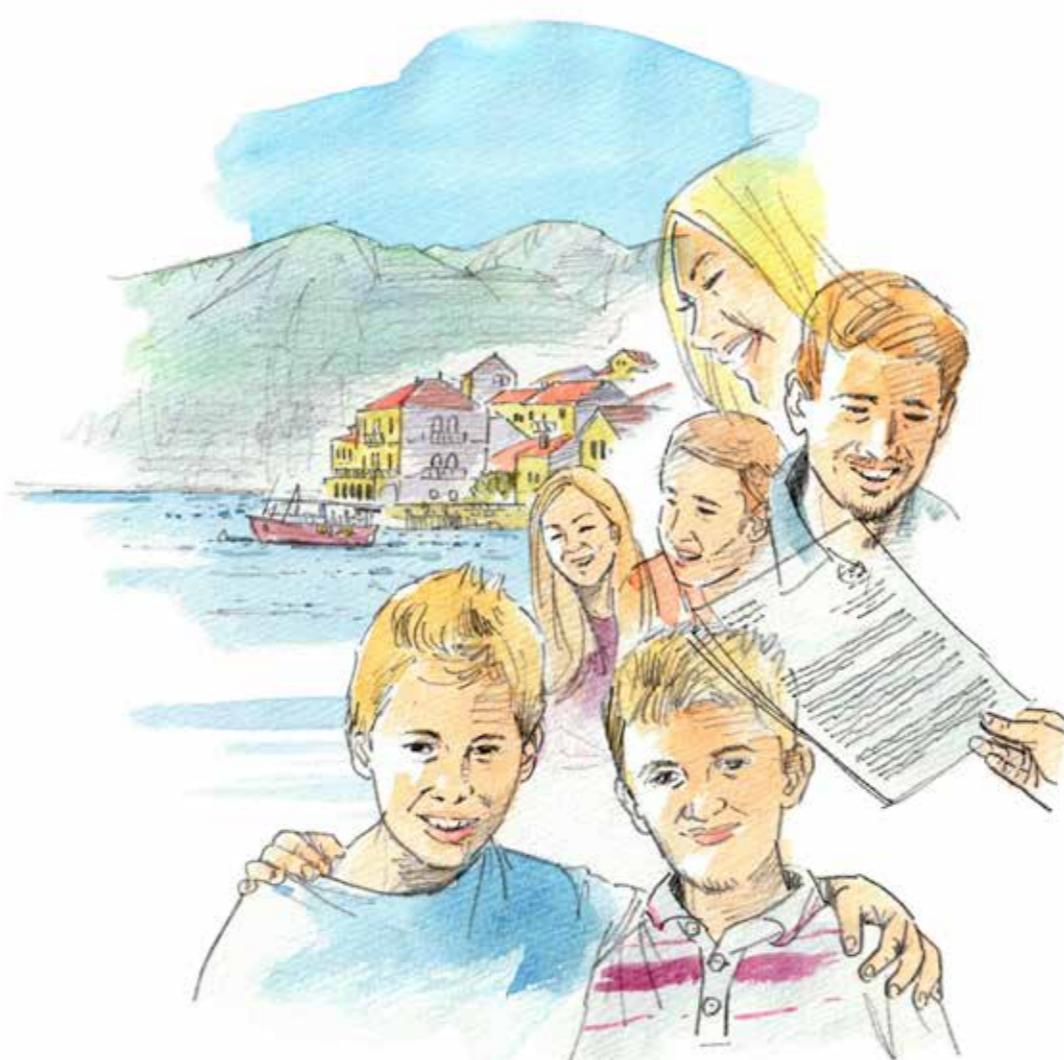
- 34 教えて！外務省  
知っておきたい国際協力⑯  
36 緒方貞子 元理事長逝去のお知らせ  
37 JICAイベントカレンダー  
38 読者の声、プレゼントほか  
39 JICA PRESS  
40 わたしが見つけたSDGs Vol. 15



# “最初のヨーロッパ”への誘い

プロローグ  
Vol. 14

文・柴宜弘



イラスト●中村知史

バルカン半島西側の6か国からなる帶状の一帯が、西バルカン地域と呼ばれる。欧州連合（EU）の統合過程から取り残されてしまった地域であり、「最後のヨーロッパ」とも称される。しかし、旧ユーゴスラビアのボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、コソボ、北マケドニアの5か国とアルバニアからなるこの地域に生きる人々にとっては、ここはヨーロッパ文明発祥の地域であり、「最初のヨーロッパ」との意識が強い。

旧ユーゴスラビアの5か国には1990年代の紛争のイメージが強烈で、いまでも多くの人は、この地域は「危険地域」という思い込みから抜けきれていないだろう。日本の本州の面積より狭い地域に6か国が隣接しており、民族、言語、宗教が複雑に絡まっている。こうした複雑さが原因となつて紛争が引き起こされ、ユーゴスラビア紛争もその延長線上にあつたと説明されると、わかつたような気になつてしまふ。

しかし、この地域の紛争は複雑さに起因するのではなく、それを利用しようとする外部勢力や内部の政治勢力によるところが大きい。長い歴史を概観すれば明らかのように、この地域の人々はおたがいの違いを認め合い、知恵を働かせて共生してきた。複雑さとは多様性と言い換えてよいだろう。人々はむしろその多様性をばねにして、引き起こされた対立を乗り越えてきた。

コソボでの私の体験もそのことを示している。数年前に私はベオグラードに本部を置くECPD（平和と開発のためのヨーロッパ・センター）内の国連平和大学（本部はコスタリカ）で教えたことがある。旧ユーゴスラビア時代の85年に創設されたECPDは、現在もこの地域の平和と安定を目指して、主として大学院教育を行っている。私が講義をする機会に恵まれたテーマは「平和研究と人間の安全保障」についてだった。

ECPDの支部はコソボ第二の都市である古都プリズレンに置かれていて、ここで10人ほどのアルバニア人の院生を相手に集中講義を行つた。院生はみな社会人で、その中に国連コソボ暫定行政ミッション（UNMIK）に勤務するアルバニア人がいた。彼の講義後のレポートには、コソボ紛争（98～99年）前の少年時代に祖父から聞かされたセルビア人への不信感と、遊び仲間であるセルビア人の親友にまつわる自分自身の楽しい思い出が書かれていた。内容は、憎しみや不信だけを語り継ぐのではなく、両民族間の信頼の回復とそのための平和教育こそ重要だと主張する感動的なものだった。

この地域の発展には観光促進も重要で、西バルカン6か国による地域協力は不可欠である。EUにいち早く加盟したスロベニアと、西バルカン地域の一国だったが13年にEUに加盟したクロアチアが主導する「ブルド・ブリュニ・プロセス\*」が始まっている。19年5月には、アルバニアの首都ティラナで6か国の年次首脳会議が開かれており、観光に利用する道路などのインフラ整備も進められている。対立の記憶と共生の努力が入り混じる多様な「最初のヨーロッパ」の魅力を実感するには、やはり現地に足を運ぶのが一番だ。ビザンツやオスマンの文化遺産もさることながら、なんといっても、アドリア海の美しさやバルカンの山々の豊かな自然には誰しもが圧倒されることだろう。

\*ブルドはスロベニアのクラニ近郊の町、ブリュニはクロアチアのアドリア海沿岸の島。両国の会議開催地の名を付した「ブルド・ブリュニ・プロセス」は2010年に始まり、2015年からは首脳会議も行われている。

柴 宜弘(しばのぶひろ)

城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科・特任教授、東京大学名誉教授。1946年、東京生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了。1975～77年にベオグラード大学留学。東京大学大学院総合文化研究科教授を経て、2010～14年にECPD国連平和大学(ベオグラード)客員教授。著書に『ユーゴスラビア現代史』(岩波新書)、『図説バルカンの歴史(増補4訂新装版)』(河出書房新社)など。



信赖で世界をつなぐ  
Leading the world with trust

中国も積極的に進出しています。そのつながらが強いのですが、最近ではEUに加盟すれば欧州への拠点となり、約5億人の市場への足がかりが生まれるとも捉えられる。「地域的に欧州と人で市場規模は小さい。そのため、JETRO) 海外調査部の立川雅和さん。同地域は政治・文化・宗教・民族などが多様ながら、人口は約1,800万人で市場規模は小さい。そのため、EUに加盟すれば欧州への拠点となり、

「西バルカン地域は欧州最後のフロンティア」と呼ばれ、今、注目が集まっています」と話すのは日本貿易振興機構(JETRO) 海外調査部の立川雅和さん。同地域は政治・文化・宗教・民族などが多様ながら、人口は約1,800万人で市場規模は小さい。そのため、EUに加盟すれば欧州への拠点となり、

約5億人の市場への足がかりが生まれるとも捉えられる。「地域的に欧州と人で市場規模は小さい。そのため、EUに加盟すれば欧州への拠点となり、

重厚な街並みと日本との友好のシンボル、黄色いバス(セルビア)。

## 復興から成長へ

歐州の南東部、トルコとイタリア、オーストリアなどに囲まれたバルカン半島は、昔から民族、宗教、言語などが複雑に絡み合う地域だった。

1989年のベルリンの壁の崩壊を

きっかけに、東西冷戦時代に東欧と呼ばれていた地域は市場経済への改革が進んだ。かつての東欧諸国が次々と歐州連合(EU)に加盟するなか、北マケドニア、コソボ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロの西バルカン5か国は、旧ユーゴスラビア紛争により民主化、市場経済化が遅れるとともに、インフラが弱体化するなど、大きなダメージを受けた。また領国体制をとつていたアルバニアは対外開放政策に転じた。そんな西バルカン地域は、紛争終結から約20年を経て、復興から新たな経済成長への力を増してきている。

## ボスニア・ヘルツェゴビナ Bosnia and Herzegovina

- 国名:ボスニア・ヘルツェゴビナ
- 人口:353万人
- 言語:ボスニア語、セルビア語、クロアチア語
- 民族:ボスニア人(ムスリム)、セルビア人、クロアチア人
- 一人当たりGNI\*: 5,690ドル
- おもな輸出品:金属製品、機械類、鉱物・同製品
- おもな輸入品:鉱物、機械類、化学製品



## セルビア Republic of Serbia

- 国名:セルビア共和国
- 人口:712万人
- 言語:セルビア語、ハンガリー語など
- 民族:セルビア人、ハンガリー人、ボスニア人(ムスリム)、ロマ、アルバニア人など
- 一人当たりGNI: 6,390ドル
- おもな輸出品:電気機械、自動車、鉄鋼、ゴム製品、非鉄金属
- おもな輸入品:石油、自動車・自動車部品、電気・工業機械・機器

## コソボ Republic of Kosovo

- 国名:コソボ共和国
- 人口:180.5万人
- 言語:アルバニア語、セルビア語
- 民族:アルバニア人、セルビア人など
- 一人当たりGNI: 4,230ドル
- おもな輸出品:プラスチック・ゴム製品、食料品・飲料・たばこ
- おもな輸入品:鉱物製品、機械類・電気機器、食料品・飲料・たばこ



## モンテネグロ Montenegro

- 国名:モンテネグロ
- 首都:ポドゴリツア
- 人口:62万人
- 言語:モンテネグロ語、セルビア語など
- 民族:モンテネグロ人、セルビア人、ボスニア人(ムスリム)など
- 一人当たりGNI: 8,400ドル
- おもな輸出品:非鉄金属、鉄鋼、工業用機械
- おもな輸入品:自動車、電子機械、石油・石油精製品



北マケドニア  
Republic of North Macedonia

- 国名:北マケドニア共和国
- 首都:スコピエ
- 人口:208万人
- 通貨:マケドニア語、デナル
- 言語:マケドニア語、アルバニア語
- 民族:マケドニア人、アルバニア人など
- 一人当たりGNI: 5,450ドル
- おもな輸出品:加工品、化学製品、燃料・潤滑油
- おもな輸入品:加工品、燃料・潤滑油、一般機械、輸送機器



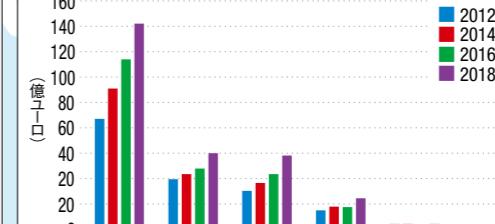
中小企業を支援するメンターの育成(モンテネグロ)。

## 西バルカン地域の対内直接投資\*の動向 (2003~2018年、フロー) \*外国企業からの直接投資



西バルカン地域への対内直接投資は、2017年には金融危機前のレベルまで回復。17年は同地域への投資が拡大し、18年にはさらに伸びている。

## 西バルカン諸国の輸出額



セルビア、北マケドニアの輸出の伸びが著しい。モンテネグロとコソボは、輸出量自体がまだ少ない。

グラフ出所: ウィーン国際経済研究所データを基にJETRO作成

## アルバニア Republic of Albania

- 国名:アルバニア共和国
- 首都:ティラナ
- 人口:286万人
- 通貨:レク
- 言語:アルバニア語
- 民族:アルバニア人
- 一人当たりGNI: 4,860ドル
- おもな輸出品:織維、靴、鉱物
- おもな輸入品:機械類、食料品・飲料・たばこ、織維

\*各国のデータは、外務省ウェブサイト、政府開発援助(ODA)国別データ集2018、世界銀行サイト、「バルカンを知るための66章」(柴宜弘 編著、明石書店)より

## 日本との良好な関係

なかでも中立的な立場にある日本が協力先として第三の選択肢となっていました」と立川さん。人件費が比較的低く、教育水準も高いため、矢崎総業(セルビア)や平野マッショール(コソボ)などすでに進出している日本企業もある。

中国も積極的に進出しています。その

創出が期待されている。

# 特集 西バルカン地域 成長力と魅力に出会う

旧ユーゴスラビア紛争終結から約20年。

今、西バルカン地域が復興を経て、成長へと転じている。

日本ではあまり知られていない西バルカン6か国の現状と魅力、

そしてEU加盟を目指し、国々の基盤を整備し、

さらなる経済発展を目指す国々と日本との関わりを紹介する。



重厚な街並みと日本との友好のシンボル、黄色いバス(セルビア)。

日本でも多様なプロジェクトを実施している。西バルカン、欧州、そして世界の安定と、日本にとっては新たな市場の創出が期待されている。

左：サービスの認知度アップや普及のためメンターフォーラムを開催。注目度が高く、多くの起業家が会場に集まつた。右：フォーラムでは、日本流の品質・生産性向上の手法“カイゼン”的説明も。現地では日本のビジネスノウハウへの関心が高い。



「わたしたち RAS は中小企業向けの補助金制度を有する国内唯一の機関です。とはいえ、ビジネスの発展には財務支援だけではな

国内の中小企業を対象にさまざまなものサポートを行う開発庁（RAS）のジェガラツ・アナさんは、JICAが行う協力に大きな信頼を寄せている。「わたしたち RAS は中小企業の一環である。

### 専用のテキストを作成

日本の専門家と一緒に作り上げた、セルビア版メンターサービスのテキスト。メンタリングの手順や方法などを書かれている。



メンターサービスを受けた企業には証明書が発行される。

企業の成功の鍵は  
「現場」従業員にあり

洲連合（EU）加盟を目標にしているセルビア政府にとって、加盟基準をクリアするために一定の政策・経済的条件を満たすことが急務となっている。具体的には経済の活性化、雇用創出、貿易赤字の緩和などが求められており、その鍵は中小企業といわれている。セルビアをはじめとする西バルカン諸国では、国内雇用の大部分を中小企業が担っているからだ。

そこで JICA は 2006 年からセルビアの中小企業支援に取り組み、一緒に対話をしながら事業向上を後押しする制度であるメンターサービスを構築。改善方法を提示するだけのコンサルタントとは異なり、メンターは中小企業にとって心強いサポート役となっている。また、そのサービスを定着させるのもプロジェクトの一環である。

「わたしたち RAS は中小企業の発展には財務支援だけではなく、日本で研修を受ける機

く、資金以外の支援も非常に重要なと考えています。中小企業支援を

ます。60年以上行ってきた日

本のノウハウをベースに、メンターサービスのセルビアモデルを確立できることはたいへんありがたいことです」と話す。

現在セルビアではメンターが約 70 人おり、担当地域でそれぞれ勤務。これまでに約 2500 社の中小企業に對してサービスを提供してきた。

そのメンターのひとり、マルコビッチ・リヤナさんは、セルビアの首都ベオグラードにある地域開発・ヨーロッパ統合局に所属する 6 人のメンターとともに、84 社に對してメンターサービスを実施している。

「セルビア人は対話によって気付きと助言を得ていくメンタリング自体になじみがなく、メンターになりたてのころは中小企業がその導入のメリットを理解できるかどうか不安でした。それを

15 年には日本で研修を受ける機



メンター育成のための座学研修。セルビア人のメンタートレーナーと日本人専門家がメンターサービスについて解説し、質問にも丁寧に対応する。



OJT (オン・ザ・ジョブ・トレーニング) 研修では製造現場や店舗などに出向き、オーナーだけでなく従業員からも話を聞き、企業の特徴や課題を探ることを体験する。



歴史を感じるベオグラード中心地（左）と郊外の様子（右）。郊外は山や丘が続き、農産物の栽培に適していることがうかがえる。

セルビア共和国 Republic of Serbia  
首都ベオグラードは、旧ユーゴスラビア社会主義連邦共和国の首都でもあった。2008年の金融危機の影響で経済成長はマイナスに転じたが、その後は緩やかな回復を続けている。現在EU加盟を目指すに取り組んでいる。



## セルビアの今 メンターの活躍で中小企業を支援

セルビアにとって歐州連合（EU）への加盟は、国内で大多数を占める中小企業が発展する近道。その鍵は、日本の中小企業支援をベースにカスタマイズされたメンターサービスだ。このサービスを西バルカン諸国にも広げ、地域全体の発展を目指す。

文●久保田真理 写真●阿部雄介

案件名 中小企業メンター制度組織化計画  
2008年8月～2011年8月

西バルカン地域における中小企業メンターサービス構築・普及促進プロジェクト(フェーズ2)  
2017年9月～2020年8月

“人財”的大切さを伝えたい!



地域開発・ヨーロッパ統合局 コーディネーター  
マルコビッチ・リヤナさん

ベオグラードで支援を始めて 17 年目。メンターサービスの提供のほか、トレーナーとしてメンター育成も行い、日本研修にも参加した。「日本では、どんな質問にも答えてくれるオープンな会社が多く驚きました」。





# 生活の基盤を整え 国の発展を

自立的な道を歩み始めて10年が経過したコソボ。課題を克服すべく、生活インフラの整備をはじめ、雇用促進、民族融合につながるJICAの協力が実施されている。

環境型社会へ向けた廃棄物管理能力向上プロジェクト  
2011年9月～2015年9月



循環型社会へ向けた廃棄物管理能力向上プロジェクト  
2011年9月～2015年9月



# 美しい町を美しく保つ

**急がれる経済発展と  
置き去りにされる  
環境問題**

コソボは、2008年にセルビアからの独立を宣言して誕生したバルカン地域で最も若い国だ。セルビアに経済的に依存し、自立的な経済構造が築かれていないかった。そのため、独立後は経済復興が最優先され、環境分野への取り組みにまで手が回らず、特に廃棄物処理は深刻な課題の一つだった。ごみ収集率が低く街中で不法投棄が増え、公衆衛生が悪化していた。

そこでJICAは、コソボ第二の都市ブリズレンで廃棄物の管理能力を向上させるプロジェクトを11年から15年まで実施した。その成果として、収集車の到着を知らせる音楽を聞きつけて住民がコンテナまでごみを持ち寄ることが習慣化され、市内にごみが散乱して悪臭を放つような環境は見られなくなつた。

て効率的な収集の実現に努めた。あわせて、廃棄物管理計画の立案支援などソフト面の協力も実施。「新しい収集車にはごみを圧縮する機能があり、収集能力が格段にアップしました。それにより、一度に収集できる距離が伸びて、収集車の1日の稼働台数を減らすことができ、作業の効率化と費用の削減を同時に達成できました」と支所長のアルバート・ガシさんは話す。旧型の収集車はごみからもれ出る液体で道路を汚すこともあるたが、液体をためるタンクが付いた機能的な収集車に替わったことで、衛生的な収集業務が実現した。

また、プロジェクトでは同市の区域を五つに分け、収集場所と時間を細かく設定したルートを作成した。「定期的に収集車がやって来ることで定期的なごみ出しにに対する住民の意識が上がりました」と語るのは同社のオペレーションを管理するリザン・ボニックさん。ごみ収集車にGPSを搭載して現在地を把握し、タイヤがパンクしたなどの緊急事態にも素早く対応して定時運行に努めている。

「収集がうまくいくようになったことで、われわれ203人のスタッフとその家族も安心して暮らすことができて、心から感謝しています。今後はプリズレン以外の地域にもこのシステムを広げられたらと思っています」とガシさん。

今後、経済発展とともに増えるであろう廃棄物処理の問題に、同公社で培われたノウハウが役立つていくに違いない。

A medium shot of a man from the waist up, standing outdoors. He is wearing a dark blue blazer over a white button-down shirt. He has short brown hair and is gesturing with his hands as if he is speaking or explaining something. The background shows a white van parked on a street with trees and buildings in the distance under a clear sky.

エコリージョン公社 支所長  
アルバート・ガシさん

同公社は、プリズレンにおけるゴミ収集サービスのほか、道路の清掃、除雪作業、公園や河川・湖畔などの自然環境の清掃も担当する。収集率アップのための住民の理解や意識の醸成にも取り組み、学校で課外授業を行うこともある。



左：オペレーションスタッフのリザン・ボニックさん（左）とヴェテム・シャラさん。「GPS導入で時間の重要性を学びました」。右：GPSにより、ごみ収集車の現在地や収集場所での作業時間を記録。

効率的にごみを回収

区域を五つに分け、収集場所と時間bru細かく設定したルートを作成した。「定期的に収集車がやつて来る」という意識が上がりました」と語るのは同社のオペレーションを管理するリザン・ポニックさん。ごみ収集車にGPSを搭載して現在地を把握し、タイヤがパンクしたなどの緊急事態にも素早く対応して定時運行に努めている。

「収集がうまくいくようになったことで、われわれ203人のスタッフとその家族も安心して暮らすことができて、心から感謝しています。今後はプリズレン以外の地域にもこのシステムを広げられたらと思っています」とガシさん。

今後、経済発展とともに増えるであろう廃棄物処理の問題に、同公社で培われたノウハウが役立つていくに違いない。

# 企業が語る 西バルカンの魅力



日本人にはまだまだじみの薄い西バルカン諸国。  
セルビアの首都ベオグラードに事務所を置く企業から見た、現状や魅力とは?

## ビジネスの裾野が広がる 三菱商事



ビジネスチャンスが  
多くあります!



セルビアに「TOYO TIRE」の欧州工場の設立を発表。2022年からタイヤ生産を開始し、ロシアやトルコを含む欧州市場の拠点になる。

**三菱商事 ベオグラード駐在事務所長  
塚田直城(つかだ・なおき)さん**

ソフィア駐在事務所長を兼務。2015年現職に就任。着任時、セルビアには日本商工会議所も日本人会もなかったが、日本企業のセルビア進出の一助になるとセルビア日本商工会設立に尽力し、17年に同会を設立した。

日本と西バルカン諸国間のビジネスが徐々に盛り上がりつつあると感じます。2016年に「三菱日立パワーシステムズ」がボスニア・ヘルツェゴビナの石炭火力発電所に対して大気汚染物質を削減する装置を供給し、現在セルビアでも同様の準備が進められています。また今年7月には、弊社の資本・業務提携先である「TOYO TIRE」がセルビアに欧州工場設立を発表しました。身近なところではクロアチアのマグロが日本に輸出されるなど、ビジネスの裾野は着実に広がっています。

社内では、EU加盟前の国で大型の投資することを不安視する声も

\*小規模経営で生産量が少ないと感じます。

ありました。が、セルビア人は親日的で教育熱心、倫理観も高く、日本企業にも仕事のしやすい国だと思います。セルビア政府もEU加盟を見据え、海外からの直接投資に対するサポートが厚く、医農業などのライフサイエンス系から、歴史的に重工業の素地もある自動車関連をはじめとする製造業系まで幅広い分野でビジネスチャンスがあります。セルビア産ワインの質も高く、ブティックワインとして日本でも認知度が高まっていますのでぜひ一度お試しください。

## 安全で自然豊かな国々 伊藤忠商事



大きな可能性を持った  
環境意識の高い国です

**伊藤忠商事 ベオグラード事務所長  
橋本茂生(はしもと・しげお)さん**

2018年4月、現職に着任。セルビアおよび西バルカン諸国とのビジネスを通じて大きなポテンシャルを感じており、環境関連や農作物・工業関連等あらゆる分野でのビジネス拡大に取り組んでいる。

セルビアはEU加盟を見据えています。首都ベオグラードでは廃棄物処理発電事業の設備建設を開始し、また既存の石炭火力発電所向け排煙脱硫装置の供給を「三菱日立パワーシステムズ」と履行中です。

セルビアは農産物が豊かな国で、特にラズベリーやブルーベリー・スマモの生産量は国際的に上位にあります。弊社は子会社を通じてフルーツ販売企業に出資するとともに、糖度の高いイチゴの日本向け輸出を行っています。今後もさまざまな産業のビジネスを進める上で、セルビアが持つ大きな可能性を広げられればと思います。

暮らしてみると、セルビアをはじめ西バルカン諸国は安全で自然豊か、教育レベルも高く、食べ物もおいしいという非常に住みやすい国です。一方、幅広いビジネスチャンスがあるにもかかわらず、紛争終結以降の情報がないため、現在のセルビアの実情が日本人に認識されていません。われわれの取り組みを通じて、日本のみなさまにもセルビアや西バルカン諸国をより身近に感じていただけ

CASE  
2  
三つのチャンネルを統括



コソボラジオ・テレビ局(RTK)ディレクター長  
ロリック・アリファイさん(奥左)

一般チャンネルの「RTK 1」、情報番組チャンネルの「RTK 3」、アート・文化チャンネルの「RTK 4」の3つを統括する。「プロジェクト実施後は、技術面や編集面について異なる民族間でコーヒーを飲みながら話をしてより親密になり、番組制作がやりやすくなりました」。



特定の民族への偏りがない中立的な情報を放送するため、「ジャーナリストハンドブック」を作成。英語、アルバニア語、セルビア語で記載されている。

RTK2ディレクター代行  
アレクサン德拉・エヴァノビッチさん  
2013年に開設されたセルビア人向けチャンネル「RTK 2」を担当。「RTK 1」と協力しながら番組制作を行い、国際的なグランプリを受賞した番組もある。「アルバニア人の間で起きていることや彼らの主張を番組視聴を通じてセルビア人が知ることが両民族のつながりを生むと思います」。



### 異なる民族が一緒に働く

コソボの人口比率は92%トガルバニア人で、セルビア人が5パーセント、トルコ人などの民族が残りの3パーセントを占めています。コソボ紛争終結から20年、今もなお民族間には心情的ななれどあまりが残るとされる。コソボ唯一の公共放送局である「コソボラジオ・テレビ局(RTK)」では、

2013年にセルビア人向けチャンネルを開設したが、スタッフの交流はなかなか進まなかつた

という。

JICAのプロジェクトでは、偏った情報は民族融和を阻害するという考え方のものと、15年からRTKが正確・中立・公正な情報提供するスマートメディアのモデルとなるための取り組みを進めた。RTKが持つ5チャンネルすべての放送設備を統合した。

報を提供するスマートメディアのモデルとなるための取り組みを進めた。JICAのプロジェクトでは、偏った情報は民族融和を阻害するという考え方のものと、15年からRTKが正確・中立・公正な情報提供するスマートメディアのモデルとなるための取り組みを進めた。RTKが持つ5チャンネルすべての放送設備を統合した。

RTKが正確・中立・公正な情報提供するスマートメディアのモデルとなるための取り組みを通じて、RTK内でも民族融和の意識が高まり、今では夕方の時間帯に8ス番組を企画・制作するまでになつた。よりよい放送を目指して正確な情報を伝えるため、バックグラウンドの異なる人たちが同じ職場で仕事を楽しみ、新たな試みを続けています。

また、プロジェクトの提案によつて共同制作番組が二つ誕生しました。ディレクター長のロリック・アリファイさんは、「情報番組の『In Focus』(イン・フォーカス)は、今では放送回数が30回を超えて、政治や選挙などのディレクトな話題も取り扱うようになりました」。

このように取り組みを通じて、RTK内でも民族融和の意識が高まり、今では夕方の時間帯に8ス番組を企画・制作するまでになつた。よりよい放送を目指して正確な情報を伝えるため、バックグラウンドの異なる人たちが同じ職場で仕事を楽しみ、新たな試みを続けています。

RTK内でも民族融和の意識が高まり、今では夕方の時間帯に8ス番組を企画・制作するまでになつた。よりよい放送を目指して正確な情報を伝えるため、バックグラウンドの異なる人たちが同じ職場で仕事を楽しみ、新たな試みを続けています。

RTK内でも民族融和の意識が高まり、今では夕方の時間帯に8ス番組を企画・制作するまでになつた。よりよい放送を目指して正確な情報を伝えるため、バックグラウンドの異なる人たちが同じ職場で仕事を楽しみ、新たな試みを続けています。

番組制作ではデジタル化が進んでいるが、インフラ整備の遅れにより、現在でもアンテナ送信によるアナログ放送を行っている。



## 番組制作を通じて育む民族間理解

案件名 コソボ国営放送局能力向上プロジェクト  
2015年10月～2019年3月

セルビア語  
チャンネルを統括

ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園を特徴づけているラグーン。



ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園管理事務所長のアルディアン・コチさん(右)と保護されたハイイロペリカンのジョニー。後方にあるのが管理事務所。



自然と人間が  
共生してきた場所です

## ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園

2007年に国立公園に制定。アドリア海沿岸の河口からラグーン、砂丘、その背後の森林（地中海松）と生態系は変化に富んでいる。カラヴァスタ・ラグーンは、1994年、湿地保存に関する国際条約であるラムサール条約の登録湿地となった。絶滅危惧種のハイイロペリカンの生息地でもある。



JICA国際協力専門員  
阪口法明(さかぐち・のりあき)さん



公園内で有機農業を営む組合のメンバー。ここではスイカが作られている。



ラグーンの海への開口部では伝統的な漁業が行なわれている。

# 自然保護と持続可能な 利用の両立



アルバニアの国立公園では、自然環境を保全しながら、そこに暮らす人々の生活も尊重する、そんな持続可能な公園管理を目指した協力が継続している。

**事業名** ディヴィアカ・カラヴァスタ国立公園参加型管理による保全と持続的利用プロジェクト  
2012年5月～2014年9月

## アルバニア共和国 **Republic of Albania**

国土面積は四国の約1.5倍。その約3分の2は山岳あるいは丘陵地帯で、残りは沿岸部の海岸と肥沃な平野。生物多様性条約を批准し、2000年に生物多様性国家戦略および行動計画を策定。その目標に従い、保護区面積を国十の5.8%（2000年）から13.17%（2010年）に増やしている。

が公園の魅力を体験でき、エコツーリズムの考え方を取り入れること、学校での環境教育を充実させラグーンの重要性を児童や生徒たちに教えることなど、多くの施設が盛り込まれた国立

「公園の自然環境保全と漁業、農業、観光などがともに成立しなければ、持続可能な公園管理はできません。アルバニアの関係者の間には、プロジェクトを通じてそうした意識が芽生えているので、今後はそれをさらに発展させ、適切な管理に向けて協力を進めます」。

トになりました」と、JICAの国際協力専門員の阪口法明さんは説明する。

## 日本のノウハウで協力

プロジェクトでは、多くの関係者が一緒に国立公園について考える参加型の公園管理計画の策定を目標とした。そこで、日本の環境省で長年国立公園管理に携わった青山銀三さんをチーフアドバイザーとして長期にわたりアルバニアへ派遣。公園内を利用の仕方によつて四つの区域に分け、それぞれの適切な管理方法について関係者が集まって議論した。

「アメリカなど多くの国の国立公園は100パーセント国有地で、住民はおらず、管理しやすいところが多い。一方で日本の国立公園はアルバニアと同様に国有地と民有地が混在していて、地域住民が国立公園内で生活することから、多くの利害関係者との協働管理を行つてきました。その経験を生かしてほしいという要請があり、アルバニア初の技術協力プロジェクト

関係者が多い  
国立公園の管理

\*外海から砂洲やサンゴ礁で隔てられた浅い水域。砂洲によって湖沼化した地形は潟(かた)、潟湖(せきこ)と呼ばれる。日本では北海道のサロマ湖や秋田県の八郎潟などがその好例。ヨーロッパではフランスの地中海沿岸やイタリアのアドリア海沿岸などを見ることができる。





## エキゾチックな古都

### ①ボスニア・ヘルツェゴビナ／モスタル

首都サラエボの南西約70km、異国情緒たっぷりの古都モスタルは、オスマン・トルコ帝国の国境の町として栄えたヘルツェゴビナ地方最大の都市。町のシンボルであるアーチ型の石橋は1990年代の紛争によってトルコ風の町並みともども破壊されたが、2004年にユネスコの協力で修復・再建され、翌年に世界遺産に登録された。



平和の象徴／



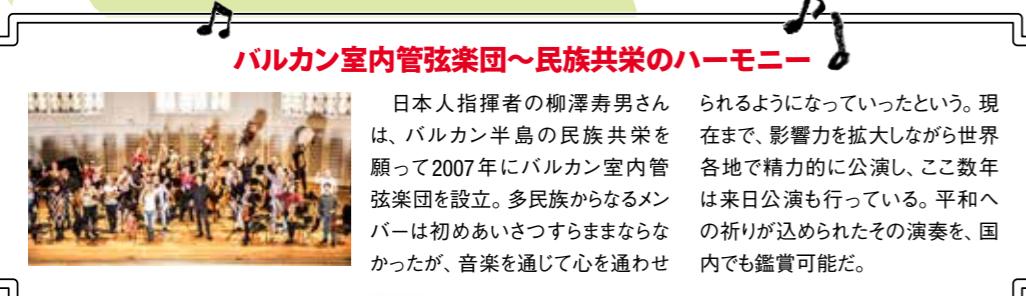
## 秘境アウトドア体験

### ②モンテネグロ／ドゥルミトル国立公園

樹齢数百年を超えるモミやネズの原生林が広がる“ヨーロッパ最後の秘境”。390km<sup>2</sup>におよぶ大自然に2,000mを超える山々が48峰もあり、氷河がつくり出したダイナミックな眺望を求めて多くの観光客が訪れる。全長93km、深さは最大で1,300mにも達するタラ渓谷では、絶景に囲まれながらラフティングや川遊びを楽しめる。

**バルカン室内管弦楽団～民族共栄のハーモニー**

日本人指揮者の柳澤寿男さんは、バルカン半島の民族共栄を願って2007年にバルカン室内管弦楽団を設立。多民族からなるメンバーは来日公演も行っている。平和への祈りが込められたその演奏を、國內でも鑑賞可能だ。



持続可能な観光振興の仕組みづくりを、日本の観光地の運営方法の紹介や観光客誘致のためのプレスツアーの実施、プロモーション戦略の策定などを通じて支援してきました。魅力いっぱいのバルカンへ、ぜひ遊びに来てください。



JICA専門家  
牧野貴彦(まきの・たかひこ)さん

さまざまな顔を持つバルカン地域は今、次の目的地」として世界中から注目を集めつつある。しかし、2016年の日本人の海外旅行者数1700万人のうち、バルカン地域を訪れたのはわずか2万人あまりだったというからその魅力が日本に十分に伝わっていないとは言いかたい。本格的なブームが到来する前に、そのユニークな魅力を先取りしておきたい。

「文明の十字路」と呼ばれるバルカン地域には、遺跡や景勝地など、多くの観光資源が豊富に存在している。「古代ギリシャ帝国、ローマ帝国、オスマン・トルコ帝国、オーストリア・ハンガリー帝国など、この地域は数々の異なる王権に支配されてきたため、東西の文化が混在した独特の雰囲気が漂っています」と話すのは、西バルカン地域の観光開発に携わってきたJICA専門家の牧野貴彦さん。系民族の食文化や地中海・小アジア地域の影響が混じり合った、この地域ならではの料理がたくさんあります。古代ギリシャ時代から続くワイン造りも盛んで、たとえばモンテネグロのグラナツなど自家種を使った銘酒は美味。バルカン地域は「グルメ旅」にもおすすめできます。

手つかずの自然もバルカン地域の魅力だ。「リゾート地として世界的な人気を得るアドリア海の島々や海岸線、渓谷や山峰の雄大な景色、そして、美しく青きドナウ。ハイキングやワインタースポーツを楽しめる国立公園もあります。アドリア海派も大満足の旅ができるはずです」。バルカン地域の美しい自然是、平和な時代の象徴でもある。EU加盟を目指す国々が環境保護の国際化を進めるなか、ドナウ川保護協定などの国境を超えたプログラムが、歴史的に対立していた国々の橋渡し役になることもあった。

さまざまな顔を持つバルカン地域は今、次の目的地」として世界中から注目を集めつつある。しかし、2016年の日本人の海外旅行者数1700万人のうち、バルカン地域を訪れたのはわずか2万人あまりだったというからその魅力が日本に十分に伝わっていないとは言いかたい。本格的なブームが到来する前に、そのユニークな魅力を先取りしておきたい。

# 観光開発の専門家が解説! “文明の十字路”バルカンを知る

平和を取り戻した西バルカンの国々は観光開発に力を入れている。各国政府からの要請を受けて「広域観光アドバイザー」を務めた牧野貴彦さんに、この地域の魅力を巡るルートを教えてもらった。

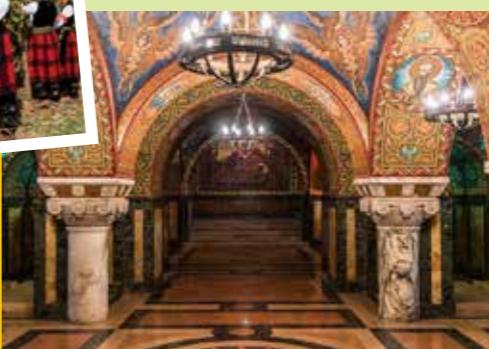
情報提供・朝日旅行

セルビアの民族衣装。

## セルビア王朝ゆかりの地

### ⑥セルビア／トポラ

1804年、カラヨルジェはこの小さな町でオスマン・トルコ帝国への最初の反乱を起こした。丘の上のオブレナツ教会は後にセルビア王家となったカラヨルジェ家を祀っており、豪華な聖廟や精巧なモザイク画が有名。裏には王家のブドウ園があり、ワインを生産している。どかな景色と王家のワインを楽しみながら、興亡の歴史に思いを馳せるのもよい。



## フレンドリーなコソボを体験

### ⑤コソボ／プリシュティナ

首都プリシュティナは東ローマ帝国時代の6世紀に交易都市として発展した。新旧入り交じる町なかにはモスクと教会がともに建ち並び、前衛的なデザインが目を引く国立図書館や人々でぎわうマーケット、オスマン・トルコ帝国時代の旧市街など魅力が満載。町を歩けば現地の人たちが人懐っこい笑顔を向けてくれるだろう。



## 信仰が息づく童話のような町

### ④北マケドニア／オフリド

新約聖書の一部が書かれたとされる北マケドニア。その“古代都市”オフリドには初期キリスト教の遺跡や墓所があり、365もの教会が点在する。オフリド湖のビーチでは地中海性の温暖な気候のなかで湖水浴が楽しめ、湖で捕れるマスは特においしいと評判だとか。城塞や伝統的な家屋が建ち並ぶ石畳の街路など見どころが多い。



## オスマン・トルコ帝国の遺産

### ③アルバニア／ベラト

オスマン・トルコ帝国時代に建てられた石造りの家々が山の斜面を覆う世界遺産の町。町の起源は紀元前4世紀まで遡り、その独特的な景観から“千の窓の町”や“2,400歳の博物館”と呼ばれている。ベラト城内には東ローマ帝国時代の遺跡や教会があり、今でも100人近い人が住んでいる。時が止まったような歴史の重みを感じられる。





### Message from Tsune



仲間と協力し合い、相手の選手やチームメイトをリスペクトし合うスポーツには、国境や民族の壁を超えて人々を結びつける力があることを信じています。一生懸命にボールを追いかける子どたちの顔からは、民族の違いによる偏見や対立感情を感じることはあります。彼らが大人になってからも友好を深め、平和なよりよい社会を築いてくれることを願っています。

宮本恒靖（みやもと・つねやす）さん  
元サッカー日本代表主将。2002年日韓大会、06年ドイツ大会と2度のW杯に出場。現役引退後にFIFAマスターに留学し、帰国後はJFA国際委員、Jリーグ専任理事などを務めた。18年よりガンバ大阪監督。



上：「子どもたちに視野を広げてほしい」という思いから、2017年にはマリモストの子どもたちを日本に招待した。  
下：18年夏に日本の子どもたちがマリモストを訪れた際には、民族の異なる保護者たちが団結して子どもたちをバーベキューでもてなしました。

タディツァーで現地を訪問したときは、親同士が「お世話をなった日本に恩返しを」と、民族を超えて協力し、バーベキューパーティを開いて歓迎した。18年からは、モスクル周辺地域のサッカーチームが民族に関係なく集まって対戦する「マリモストカップ」を開催するなど、市民にもその活動は認知されつつある。「マリモストに来ている子たちは、他民族の子もリスペクトすることができます」と、彼らが大人になつたときに、そういう体験を次の世代に伝えていくことが私たちの願いです」と、樋口さんは未来を見据えている。



上：2017年のモスタル訪問時に子どもたちを指導する宮本さん。  
下：「マリモスト」は現地語で「小さな橋」の意味。モスタル市のネレトバ川に架かる、民族間をつなぐ「スタリモスト」という名の象徴的な橋がその名称の由来。

**特別  
レポート** 元サッカー日本代表  
宮本恒靖が架けた“希望の橋”

# マリモスト

いま民族感情のわだかまりが残るボスニア・ヘルツェゴビナに、子どもたちが民族の垣根を超えて通うスポーツアカデミーがある。

立ち上げから3年の今、現地語で“小さな橋”と名付けられたその取り組みは地域へと広がり大人たちをも結びつけようとしている。

文●光石達哉

## 分断された街モスタルを スポーツでつなぐ

元サッカー日本代表主将の宮本恒靖さんが、スポーツアカデミー「マリモスト」を設立するためには、ボスニア・ヘルツェゴビナ南部の街モスタルを初めて訪問したのは

2014年2月。その後、多くの関係機関との調整を重ね、マリモストは16年10月に本格的に活動を

開始した。宮本さんは現役引退後の12年にFIFA（国際サッカーリーグ）が主宰する修士課程

「FIFAマスター」に進学。グ

ループで作成した修士論文で、民族融和を図るスポーツアカデミーについて研究したのがマリモスト

が終結して20年以上経つた現在も、同国ではボスニア人（ムスリム）、クロアチア人、セルビア人などの民族間に対立感情が残つて、街の中央を流れるネレトバ川の西側にクロアチア人、東側にボスニア人、郊外にセルビア人とそれぞれに居住区が分かれている。学校のカリキュラムも異なり、子どもたちが他の居住区と行き来することはあまりない。街のスポーツクラブも民族によって分かれている。ラブも民族によつて分かれているため、他民族の子どもたちが仲良くなることはほとんどない。

1992～95年のボスニア紛争について研究したのがマリモストの設立のきっかけだ。

1992～95年のボスニア紛争が終結して20年以上経つた現在も、同国ではボスニア人（ムスリム）、クロアチア人、セルビア人などの民族間に対立感情が残つて、街の中央を流れるネレトバ川の西側にクロアチア人、東側にボスニア人、郊外にセルビア人とそれぞれに居住区が分かれている。学校のカリキュラムも異なり、子どもたちが他の居住区と行き来することはあまりない。街のスポーツクラブも民族によつて分かれているため、他民族の子どもたちが仲良くなることはほとんどない。

## 紛争を経験した 親世代が一致団結

マリモストは、子どもたちだけではなく紛争を経験した親世代の融和にも取り組んでいる。

日本の支援により建てられたクラブハウスでは、子どもの送迎に来た親同士がお茶を飲みながら会話する機会も増え、保護者同士でフットサルも楽しむようになつた。18年に日本の子どもたちがス

トは、あらゆる民族の子どもたちを平等に受け入れているのが大きな特徴だ。それぞれの居住区の小学校で説明会を行つたり、チラシを配つたりして子どもを集め、現在は5歳から14歳までの90人弱が通う。そして異なる民族の子どもたちが一緒にボールを追いかけて、垣根を超えて友達をつくっている。マリモストの活動を支援するNPO法人 Little Bridge の代表理事・樋口昌平さんは「もともと子どもたち自身は、民族の違いを意識することはない」と私たちは考へています。成長するにつながつて、さまざまな外的要因によつて徐々に違いを意識するようになるのです。小さな頃から他民族の子と一緒にスポーツを楽しみ、自然に交流する機会をつくることができれば、対立感情は生まれないと思います」と説く。

宮本さんらが設立したマリモストは、あらゆる民族の子どもたちを平等に受け入れているのが大きな特徴だ。それぞれの居住区の小学校で説明会を行つたり、チラシを配つたりして子どもを集め、現在は5歳から14歳までの90人弱が通う。そして異なる民族の子どもたちが一緒にボールを追いかけて、垣根を超えて友達をつくっている。マリモストの活動を支援するNPO法人 Little Bridge の代表理事・樋口昌平さんは「もともと子どもたち自身は、民族の違いを意識することはない」と私たちは考へています。成長するにつながつて、さまざまな外的要因によつて徐々に違いを意識するようになるのです。小さな頃から他民族の子と一緒にスポーツを楽しみ、自然に交流する機会をつくることができれば、対立感情は生まれないと思います」と説く。



# JICA海外協力隊 がゆく Vol. 13

今回紹介するのは、  
セルビア初の海外協力隊員。  
障害児・者のスポーツ活動を支援しています。

# in セルビア 宮城勇也

みやぎ・ゆうや 24歳  
出身地:沖縄県 職種:障害児・者支援  
任期:2019年1月～2021年1月



障害のある人たちが  
スポーツを楽しめるよう  
サポートをしています



車いす利用者のサポートとしてベオグラード・マラソンに参加。

走しました！多くの大会参加者や観客、メディアなどにも、日本から来た協力隊員による障害者サポートについて興味を持つてもらえ、セルビアの障害児・者を取り巻く環境に少しではありますがない新しい風を吹かせることができたのではと感じています。

スポーツは障害の有無にかかわらず多くの人が楽しむことができます。協会での活動やスポーツ大会への出場などを通し、多くの人に障害児・者の存在をアピールし、おたがいの理解を深めていきたいと思います。

施設の利用者には、後天的な(たとえば病気や交通事故などによる)障害のある人も多く、私には新しい試みとなる場面もありますが、指導や支援について本人やご家族、同僚らと一緒に考えていくよう意識しています。

スポーツトレーナーとして水泳や空手、テニス、子ども向けの運動などの指導を行っています。水泳や空手はセルビア人の指導者がいますが、テニスの指導ができるのは私だけ。協会では新しいスポーツの支援活動に取り組めたと喜んでもらいました。最近では、指導内容がマンネリ化しないように同僚と話し合いながら、新しい練習プログラムを取り入れています。

スポーツが大好きで幼い頃からテニスや空手、水泳をやっていました。特別支援学校教諭だった両親の影響で、大学では特別支援教育を専攻。学生の頃は障害者スポーツの大会ボランティアや地域のスポーツ指導を行っていました。高校時代、部活で取り組んだたテニスの監督が青年海外協力隊のOBでした。ケニアでの活動の話を聞き、彼の生き方に憧れ、協力隊に参加したいと考えてしました。そして、協力隊の募集で真っ向から応募しました。

今年1月から、ベオグラード障害者スポーツ協会で隊員としての活動が始まりました。協会の同僚と複数のスポーツ施設を巡回し、

**+one information**  
誰もがスポーツを楽しめる国に

日本人にはあまりなじみのないセルビアですが、実はスポーツの分野では世界トップレベルの選手が多くいます。誰もが知っている人といえば、テニスプレイヤーのノバク・ジョコビッチでしょうか。バレーボールもバスケットボールも世界トップレベルです。首都ベオグラードのきれいに整備された公園の広場では、子どもたちがバスケットボールやサッカー、ランニングなどに励んでいて、選手育成のための子ども向けクラブから大人が趣味として参加できる場まで、街のいたるところにスポーツのできる環境があります。

しかし、障害のある人たちがこのような施設でスポーツをしている姿を見ることはあまりありません。街がバリアフリーでないこと、彼らにスポーツを教える指導者がいないこと、またそもそも外出する機会が少ないことなど多くの課題があります。どんなに重い障害があっても環境と少しのサポートがあれば、彼らも同じようにスポーツを楽しむことができます。地域の人たちに彼らの存在を知ってもらうことで、彼らの可能性やバリアフリーなどの必要な支援に目を向けてもらえると思います。

セルビアの人たちはとても優しく、バスではどんなに混み合っていても子どもやお年寄りに席を譲り、街で困っている人がいると「何かできることはない?」と声をかけます。障害があっても社会参加できる場があれば、きっと周りの理解も得られ、より安心して充実した生活を送ることができると思います。(宮城勇也)



イラスト・さかがわ成美





# 湖と生きる人々

# Re public of Nicaragua

EARTH GALLERY Vol.135 [ニカラグア共和国]



明治24（1891）年、創刊18年目の『讀賣新聞』で「ニカラグア運河論」という全13回の連載がスタートした。そこには、「ニカラグア運河開通の日は、即ち是世界の商業を一変するの日なり」とあり、日本もそれに乗り遅れるなど続く。

当時、大西洋と太平洋を行き来するには、南米大陸の南端を迂回するしかなかつた。15世紀のコロンブスによる『新大陸発見』以来、歐州諸国はふたつの大洋を最短で結ぶ運河建設を夢見てきた。その候補地として目をつけたのが南北アメリカ大陸のくびれ、である中米地峡であり、ニカラグアは当初、その有力な候補地だったのだ。『夢』はその後、絶余曲折を経て近隣国のパナマで実現する。それが1914年に開通したパナマ運河だ。

冒頭の新聞記事が出たころの日本は、武士の世から明治を迎えて、近代国家の道を歩み始めたばかり。記事からは『新生國家』の野心が伝わってくる。

ニカラグア運河は結局実現しなかつたものの、パナマ運河誕生後も、『第二の運河』として何度か計画が持ち上がっている。その大きな理由が、大型船舶の航行も可能と考えられる中米最大の湖・ニカラグア湖の存在だ。ニカラグア湖は淡水湖として世界で10番目の広さで、淡水生のサメやピンクのイルカなどのすららしい動植物が生息する生物多様性の宝庫としても知られている。

世界中の人に注目されてきたこの湖周辺では、どのような生活が営まれているのか。現地を訪ねると、湖の恵みを得て穏やかに暮らす人々の姿があつた。

私が訪ねたのは、ニカラグア湖の北端にあるサンミゲリートという小さな町。そこでは、多くの人が牧畜や漁業に従事している。朝日を浴びながら牛の乳を搾る親子と出会つた。声をかけると、搾りたての牛乳をその場で飲ませてくれた。温かくて濃い甘みが口の中に広がった。

午後、湖畔の広場に行くと、グローブとバットを手にした子どもたちが集まつてきた。学校を終えた小学生らは毎日ここで野球をするという。中南米といえばサッカーのイメージが強いが、ニカラグアをはじめカリブ海に面した地域では野球が盛んだ。

遊ぶ子どもたちの近くで、釣り上げた1メートルを超える魚、ガスバルをさばく男性を見かけた。さばいた後は塩をまぶして天日で干す。皮がワニの表皮のように硬く、細く突き出した口には鋭い歯が並んでいる。

彼に、漁同行したいと頼んでみた。「明日の午後3時くらいに出るから、来たらいいよ」とOKしてくれた。漁は翌日の明け方まで続くらしい。

船に乗るのは6人。出発ギリギリまで寝ていた人が、まだ眠そうにしている。湖にいると、暖かい風に包まれる。遠くに、煙

柴田 大輔（しばた・だいすけ）  
フォトジャーナリスト。1980年、茨城県生まれ。写真専門学校を卒業後、フリーランスとして活動。ラテンアメリカ13か国を旅して多様な風土と人の暮らしに強く惹かれる。2006年からラテンアメリカの人々を取り上げ、ウェブや雑誌で発表する。  
<https://www.daisuke-shiba.com/>



左：理髪店で髪を切る男の子。散髪代は約100円。中：「将来は先生になりたい」と、勉強に励む女の子。右：学校帰りに靴磨きのアルバイトに出る兄弟と出会った。



夕日が沈むニカラグア湖の向こうに、噴煙を上げるオメテペ島のシルエットが浮かぶ。

2015年、ニカラグア運河建設に反対する住民が抗議のデモをくり返した。



紛争から復興を経て  
成長に舵を切った西バルカン地域。  
日本との関係が強まっています



©DLE  
外務省ODA  
広報キャラクター  
ODAマン

今月のテーマ

## 西バルカン地域

答えてくれた人



外務省 国際協力局  
国別開発協力第三課

**氣賀沢 千代**(きがさわ・ちよ)さん(右)  
民間企業でのITコンサルタントとしての勤務を経て、2017年8月から現職。

**平山宗幸**(ひらやま・むねゆき)さん(左)  
2002年農林水産省入省。農林水産省技術会議事務局、環境省自然環境局などを経て、18年4月から現職。

# A Q<sub>3</sub> 最近の地域間協力はありますか?

## A<sub>3</sub> 防災セミナーや青年招へい、ビジネスセミナーなどを行いました。

西バルカン諸国が国境を越えて取り組むべき課題があります。それは防災や民族融和です。

今年2月には、西バルカン地域への支援に意欲的なブルガリアと協力し、同地域の共通課題である洪水への対応をテーマに防災セミナーを開催しました。日本やブルガリア、西バルカン諸国、さらに国際機関などから防災関係者約60人がブルガリアに集まり、防災政策の枠組みや法制度、洪水予防のインフラ整備、防災教育などについて活発な議論が行われ、防災関係者のネットワーク構築にもつながりました。

一方、民族融和につながるのが青年招へいです。昨年は外務省の「MIRAIプロ



西バルカン防災セミナーに集まった西バルカン諸国、ブルガリア、日本、国際機関などの防災関係者。



日本との  
関係強化が  
期待されます

## 在外公館レポート ブルガリア Bulgaria

### ブルガリアと連携し、民間ビジネス育成を支援

西バルカン地域に隣接し、“バルカンの母”とも呼ばれるブルガリア。西バルカン諸国と良好な関係を維持しており、各国のEU加盟支援を外交上の最優先課題の一つに掲げています。現在そのブルガリアと日本が協力し、EU加盟を目指してさまざまな社会・経済改革を推進している北マケドニアの中小企業育成支援に取り組んでおり、三角協力を通じた効果的なケースとして注目されています。

ベルリンの壁崩壊後、市場経済化の波は西バルカン諸国にも押し寄せました。この地域では長年、国営企業や公社が経済活動の中心となっていたため民間企業

経営の歴史が浅く、同地域の持続可能な安定と発展の観点から、中小企業育成支援は重要な柱の一つとなっています。

ブルガリアは、EU加盟前にJICAの技術協力により、国立の世界経済大学に経営人材育成のためのビジネスコースを立ち上げた経緯があります。その世界経済大学がビジネスコースを立ち上げた際の人材と見を活用し、ブルガリア政府のODA予算とJICAとの協力により、北マケドニアのスコピエ大学に中小企業経営者育成のビジネスコースを立ち上げるプロジェクトを実現しました。長崎大学からも講師が参加し、「日本式経営」や「品質管理」といっ

たテーマの講座で、北マケドニアの次世代を担う熱心な若手経営者たちが耳を傾けています。

(在ブルガリア日本国大使館一等書記官 山岸あおい)



日本人講師の講義に熱心に耳を傾ける北マケドニアの若手経営者たち。



ブルガリア  
首都: ソフィア

# A Q<sub>1</sub> 西バルカン地域に共通することは?

## A<sub>1</sub> 各国がEU加盟を目標に、経済成長に力を注いでいます。

バルカン諸国は製造業の分野をはじめ新たな投資先としての魅力が高まっています。

こうした取り組みを続けることによって西バルカン地域内の協力関係を進めるとともに、日本と西バルカン地域の交流を促進していきます。

\* 2015年から始まった招へいプログラム。欧州および中央アジア・コーカサス地域の大学・大学院生や若手社会人に、日本の政治、経済、社会、歴史、文化および外交政策について理解を深める機会を提供するとともに、同世代の日本人学生や若手実務者との交流を行い、相互理解を促進する事業。



「MIRAIプログラム」で日本を訪れた西バルカン諸国の青年が外務省を訪問。



西バルカン諸国  
の商工会議所  
の代表らが参加  
したビジネスセ  
ミナー。

西バルカン地域とは、アルバニア、北マケドニア、コソボ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロの6か国です。アルバニアを除き旧ユーゴ紛争後に独立した国々で、紛争後の復興期を経て、今は成長に向けて歩みを進めています。各國ごとに経済水準や抱える課題は異なりますが、共通しているのは欧州連合(EU)への加盟を目標としている点です。

# A Q<sub>2</sub> 日本の外交方針は?

## A<sub>2</sub> 「西バルカン協力イニシアティブ」のもと、地域全体への協力を進めています。

宗教や文化、言語の異なる多くの民族が暮らす西バルカン地域が安定し、平和になることは、欧州全体の安定にもつながり、日本にとっても企業進出などの可能性が増えます。2018年1月、安倍晋三総理大臣がセルビアを訪れた際には、二国間関係の進展を確認すると同時に、「西バルカン協力イニシアティブ」のもと、日本が同地域全体への協力をさらに推進することを発表しました。

「西バルカン協力イニシアティブ」は、EU加盟を目指す西バルカン地域各との経済・社会改革を支援し、地域内での協力関係促進を目的にしています。具体的には、外務省に西バルカン担当大使を新設し、各との対話を強化するほか、防災・中小企業振興などの分野における日本の知見の共有、新しい協力案件の発掘・形成のためのJICA調査団の派遣などの取り組みを行っています。

20年にはコソボの首都プリシュティナに兼勤駐在官事務所の設置が予定されるなど、西バルカン諸国とのますますの関係強

化が期待されます。これまで日本は、セルビアやボスニア・ヘルツェゴビナで運行されている黄色いバス(9ページ参照)のように、目に見える形で貢献し、どの国、どの民族に対しても公平な立場で支援を展開していました。そんな日本に西バルカン諸国の人々は親近感を抱き、厚い信頼を寄せててくれています。その期待に応えるために、引き続き各のニーズに合った支援を行っていきます。



日・セルビア首脳会談で握手するアレクサンダル・ブチッチ大統領(右)と安倍総理大臣(写真提供: 内閣広報室)。

# JICAイベントカレンダー 2019

## DECEMBER

JICA北海道(札幌)

12月21日(土)

### 道内最大の国際協力イベント

今年で22回目を迎える国際協力フェスタでは「SDGs for all ~“ちがい”を知ろう!楽しもう!~」をテーマに、国際交流や国際協力活動を続ける約30の企業、団体、NPOなどが集まって、さまざまな催しを行う。チャリティバザーや活動紹介、ステージイベントなどを通して、楽しみながら国際協力について理解を深められるイベントとなっている。



●北海道国際協力フェスタ2019  
「SDGs for all ~“ちがい”を知ろう!楽しもう!~」  
日時: 2019年12月21日(土)  
会場: 札幌駅前地下広場(チ・カ・ホ) 北3条交差点広場  
北海道札幌市中央区北1条  
主催: 北海道NGOネットワーク協議会  
(北海道国際協力フェスタ実行委員会) \詳細は[こちら](#)/  
入場無料、事前申し込み不要。  
詳細はJICA北海道(札幌)まで。  
(TEL: 011-866-8421)



### 東京SDGs吹奏楽団 ウィンターコンサート

●JICA東京×東京SDGs吹奏楽団ウィンターコンサート  
「音楽で国際協力!  
~音楽を通してSDGsについて考えよう~」  
日時: 2019年12月21日(土)15:00~17:00(開場14:30)  
会場: JICA東京 講堂 東京都渋谷区西原2-49-5  
入場無料、事前申し込み不要。  
詳細はJICA東京まで。  
(TEL: 03-3485-7680)

JICA東京

12月21日(土)



JICA東京公式サポーターである「東京SDGs吹奏楽団」は音楽を通してSDGsを広める活動をしている。今回はJICA東京で「東京SDGs吹奏楽団ウィンターコンサート」を開催。楽団のオリジナル曲である「SDGs賛歌」やクリスマスソングなどを披露する。

### イチオシ 映画の新着情報



©Big World Cinema

2018年 / ケニア、南アフリカ、フランス  
82分  
配給: サンリス  
監督: ワヌリ・カヒワ  
11月よりシアター・イメージフォーラムほか  
全国順次公開中。

本作は、カンヌ国際映画祭史上初のケニア映画として出品。世界から熱く支持されたにもかかわらず、本国ケニアで観ることができないのが、まだ同性愛が違法とされ禁固刑に処されることもあるケニア国内で問題視されたためだ。

タイトルにある「ラフィキ」とは、スワヒリ語で友達という意味。二人の少女の友情はやがて恋に変わり、性愛に対する古いしきたりと偏見、社会の壁が少女たちに厳しく選択を迫る。音楽、ダンス、ファンション、アート...。ポップでカラフルなアフリカンユースカルチャーにのせて、ケニア社会が抱える葛藤を鮮やかに描く。映画祭への出品の条件を満たすため、同国で1週間だけ公開された際には若者が長蛇の列を作ったといふ。変革期を迎えるケニアを知るにも重要な一作。

### 『ラフィキふたりの夢』



2018年 / ドイツ / 86分  
配給: ユナイテッド・ブルー  
監督: カール・A・フェニーナ  
11月29日(金)より、ヒューマントラストシネマ渋谷ほか全国順次公開中。

本作は世界が抱えている気候問題に挑戦する「気候活動家」に密着したドキュメンタリー。彼らは最先端のテクノロジーや創造的な社会変革行動を武器に闘う「気候戦士」だ。温室効果ガスは汚染物質だと認めたアーノルド・シュワルツェネッガーさんや、気候変動を阻止するために積極的に活動する17歳のヒップホップアーティストのシュー・スクット・マルティネスさん、孫の世代のためにわらを活用したバイオマス発電を実用化した発明家など、さまざまな視点で活動している人びとを紹介していく。監督のカール・A・フェニーナさんは「立ち上がろう!そして100パーセント再生可能エネルギー実現のために今こそ行動しよう!」と呼びかける。

### 『クライメート・ウォーリアーズ』

# 緒方貞子 元理事長逝去のお知らせ



独立行政法人国際協力機構 元理事長の緒方貞子さんが  
2019年10月22日に逝去されましたことを、謹んでお知らせ申し上げます。



緒方 貞子  
(おがた・さだこ)

生年月日:  
昭和2(1927)年9月16日  
逝去日:  
令和元(2019)年10月22日  
(享年92歳)

#### 経歴

- ・1951年 聖心女子大学英文科卒業
- ・1953年 ジョージタウン大学にて国際関係論修士号取得
- ・1963年 カリフォルニア大学(バークレー校)にて政治学博士号取得
- ・1965年～1979年 国際基督教大学非常勤講師・準教授
- ・1976年4月 国際連合日本政府代表部 公使
- ・1978年4月～1979年8月 特命全権公使 国際連合日本政府代表部在勤
- ・1978年～1979年 UNICEF執行理事会議長
- ・1979年11月 外務省参与
- (カンボジア難民救済実情視察団団長、团长としての期間大使の名称付与)
- ・1980年～1988年 上智大学国際関係研究所教授
- ・1981年～1985年 婦人問題企画推進会議委員
- ・1982年～1985年 国連人権委員会政府代表
- ・1983年～1987年 国際人道問題独立委員会委員
- ・1987年～1988年 上智大学国際関係研究所長
- ・1989年～1991年 上智大学外国语学部長
- ・1991年～2000年 第8代国連難民高等弁務官(UNHCR)
- ・2001年～2003年 人間の安全保障委員会共同議長
- ・2001年～2004年 アフガニスタン復興支援総理特別代表
- ・2003年～2004年 国連有識者ハイレベル委員会委員
- ・2003年～2011年 人間の安全保障諮問委員会委員長
- ・2003年10月～2012年3月 独立行政法人国際協力機構理事長
- ・2012年4月～2014年9月 独立行政法人国際協力機構特別顧問
- ・2012年4月～2016年3月 外務省顧問
- ・2014年10月～2018年3月 独立行政法人国際協力機構特別フェロー
- ・2018年4月～ 独立行政法人国際協力機構名誉顧問

#### 記帳所のご案内

設置場所: JICA本部(麹町および市ヶ谷)1階受付付近  
JICAの国内全拠点  
設置期間: 2019年11月13日(水)～12月12日(木)  
(土・日・祝日を除く) 9:30～17:30  
香典、供花などはお預かりできませんのでご了承ください。  
葬儀は近親者によってすでに執り行われました。  
後日「偲ぶ会(仮称)」を執り行う予定です。  
日時・場所など詳細はあらためてJICAウェブサイトでご案内いたします。





1.貧困をなくす 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を



ナミブ砂漠にて、ナディートのスタッフら関係者と。

## 今ある資源を大切に

今年の夏、大学の「SDGsスタディツアーナミブ砂漠で学ぶサステナビリティ」に参加し、ナミビア共和国にあるナディート・センターで、『究極のサステナビリティ・ライフ』を体験しました。ナディートは、ナミビア共和国が抱えている課題に対して、さまざまな体験を通じた啓発活動を行っています。たとえばエネルギーでは生活に関わるエネルギーには、送電網のインフラ整備が不十分のために薪をエネルギー源として暮らす人も存在します。ナディートでは生活に関するエネルギーに直射日光を利用しています。ソーラーパネルや太陽熱を利用する器具を使えば、送電網や薪を利用しなくとも調理をしたり水を温めたりすることができます。一人につき、実際に使用した電力量は一日約3キロワット。東京での暮らしの約15パーセントのエネルギーで生活することができました。

持続可能な生活を実体験を通じて伝えることは、ナミビアの人々の生活を豊かにするだけでなく、エネルギーの使用量を抑えることにもつながります。そして、限りある資源を守り、温暖化を防ぐことにも貢献するのです。私も東京ができる「自分なりの資源を無駄にしない生活」によって、エネルギーの使用量を抑えたいだと思いまます。

\*ナミブ砂漠環境信託 (Namib Desert Environmental Education Trust) の略称。エコ-ツーリズム「ナミブアフカッセ」を運営する非営利組織。

今月の投稿(文と写真)安藤穂乃佳さん  
聖心女子大学の学生。スマートフォンの参加メンバーとして「ナミブアフカッセ」への寄付活動を実施中。

### あなたの投稿をお待ちしています!

「わたしが見つけたSDGs」に写真と原稿をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題に取り組む人々の姿など、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。  
応募要項:写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。  
※写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先▶ML\_JICAPR@jica.go.jp(『mundi』編集部宛て)

### SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。



持続可能な開発目標(SDGs)とJICAの取り組み  
URL:<https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/>